

ピークシーズが終了へ

■米国小売りコンテナ、通年予想を上方修正

全米小売業協会（NRF）とハケット・アソシエイツは現地時間8日、米国主要港における小売り関連貨物のコンテナ輸入実績と、最新の予想を公表した。8月の小売り関連コンテナ輸入量は前年同月比0.7%減の230万TEUとなった。前月比では0.4%増となり、9月時点の前回予想から1万TEU上振れした。NRFとハケット・アソシエイツは今後の予想も踏まえ、8月が年間で最も輸入量の多い月となる可能性が高いとしている。2026年通年（1～12月）の予想は前年比1.4%増の2580万TEUとし、前回予想から10万TEU上方修正した。過去最高を記録した2021年と同水準まで伸びる見通しだ。

NRFとハケット・アソシエイツのデータによると、今年1～6月の米国の小売り関連コンテナ輸入量は、前年同期比1.1%増の1270万TEUとなった。4月までの累計では前年同期実績を下回っていたが、5月と6月が昨年の関税措置の反動増に加え、今年の前倒し出荷もあり、前年同月比で2ケタ増と大きく伸びたことで、1～6月累計では増加した。

8月は前回予想から上振れする一方、9月は下方修正した。最新の予想では、9月が8.2%増の228万TEUとし、前回予想から3万TEU下振れする。一方で10月は8.5%増の225万TEUとし、14万TEU上方修正した。11月は1.0%減の200万TEUで前回予想から横ばい、12月は0.6%増の202万TEUとし、1万TEU下方修正した。来年1月は1.9%減の

207万TEUとし、2万TEUの下振れ、2月は1.0%増の192万TEUと予想している。

NRFのジョナサン・ゴールド副会長は、「最終的にデータに多少の修正はあるとしても、一年で最も忙しい時期は既に過ぎたと考えられる。今年のピークシーズは例年より早く始まり、夏から秋の初めにかけて長期化した。ホリデーシーズン向けの商品の大半は既に到着しており、年内の残りの期間は駆け込みの在庫補充や2027年初頭に向けた準備を行う段階に入っている。消費者がホリデーシーズンに向けて買い物する際、店頭にはニーズや予算に合わせた幅広い選択肢が十分にそろっているはずだ」とコメントした。

ハケット・アソシエイツの創設者であるベン・ハケット氏は、「（米国の）

主要な経済指標はここ最近、全体として横ばいか、月ごとにわずかに低下する傾向にある。こうした状況にも関わらず、消費者は自信と慎重さを併せ持っている。消費者信頼感指数はここ数年で最低水準にまで低下しているが、インフレが進行する中でも個人消費は依然として堅調に推移している」と述べた。

NRFとハケット・アソシエイツは毎月、米国輸入の大宗を占める小売り関連貨物について、米国主要港の取扱量予想を公表している。同統計は、米国のロサンゼルス港・ロングビーチ港、オークランド港、シアトル港、タコマ港、ニューヨーク/ニュージャージー港、ヴァージニア州の港湾、チャールストン港、サバンナ港、ポートエバングレース、マイアミ港、ジャクソンビル港、ヒューストン港を対象とする。